



2009夏特大号

free

No.40

entertainment magazine



舞台や映画の
エンタメ情報がいっぱい!

- ★製作発表取材レポート
- ★エンタメ話題作をご紹介します
- ★WEBページ
「ターミナルこぼれ話」も
ぜひご覧下さい。

terminal 

entertainment magazine

安蘭けいさん 宝塚退団後初主演 『The Musical AIDA』

宝塚歌劇において2003年に上演された『王家に捧ぐ歌』が新たにアイダを主人公とした『THE Musical AIDA』として上演されます。

オペラ「アイダ」を原作とし、宝塚歌劇団演出家・木村信司さんの脚本・演出と、甲斐正人さんの作曲・編曲によって誕生した『王家に捧ぐ歌』は、2003年度文化庁主催 芸術祭優秀賞を受賞しました。普段は男役でありながら、敵国エジプトに囚われたエチオピアの王女アイダ役を務めた安蘭けいさんは、この作品で現役タカラジェンヌ史上初となる松尾芸能賞演劇新人賞も受賞し高い評価を得ました。

今年の4月末に宝塚歌劇団を退団した安蘭けいさんは、新たにオリジナルミュージカルとして作り上げた『THE Musical AIDA』でアイダ役と再び出逢い、女優デビューを飾ることになりました。宝塚作品がオリジナルミュージカルとして再び上演されるというのはとても珍しいことです。宝塚版同様、脚本・演出は木村信司さん、作曲・編曲・音楽監督は甲斐正人さんが務め、装いも新たに上演されます。製作発表で安蘭さんは、「女優としての第一作目がこのアイダで、宝塚で本当に大好きな役だったので、それがもう1度できるというのを幸せに思っています。宝塚では



女性ばかりですが、今回は本物の（笑）男性がやってくれるので、その中で私がどのような女優・安蘭けいとして居られるのかとても楽しみです」と語りました。将軍ラダメス役にはミュージカル『エリザベート』の皇太子ルドルフ役で注目を集めた伊礼彼方さん、エジプト王ファラオの娘であるアムネリス役は、ロック界でその名を轟かす ANZA さんが務めます。

【主な配役】

アイダ 安蘭けい / ラダメス 伊礼彼方 /
アムネリス ANZA / ファラオ 光枝明彦 /
アモナスロ 沢木 順 / ウバルド 宮川 浩 /
神官 林アキラ ほか

★日程：2009年8月29日（土）～
9月13日（日）

★会場：東京国際フォーラムホールC

★チケット料金：

S席 12,000円 A席 8,000円 B席 5,000円

★大阪公演もあります

★お問い合わせ：

梅田芸術劇場 06-6377-3800

<http://www.umegei.com/>



劇団四季 ミュージカル『春のめざめ』 四季 自由劇場で上演中

劇団四季が、ミュージカル『春のめざめ』を日本で初めて上演することになり、自由劇場で開幕しました。この作品は、1891年にドイツの劇作家フランク・ヴェデキントが発表した同名戯曲が原作となっており、これをミュージカルとして現代に甦らせたものです。2007年にトニー賞8部門を独占したブロードウェイ・ミュージカルで、思春期の少年少女たちが直面する心の葛藤や、成長期の悩みなどの教育問題を、ロック音楽に合わせてセンセーショナルに描いています。出演もスタッフも若いメンバーたちが中心となり、作り上げられているこの公演。劇団四季にとっても新境地開拓となりそうです。

★日程：2009年5月2日（土）～8月30日（日）

★会場：自由劇場

★チケット料金：S席9,000円 A席7,000円 B席6,000円（B席学生料金3,000円）
ステージシート7,000円

★お問い合わせ：

劇団四季東京公演本部 03-5776-6730



劇団四季 ミュージカル『キャッツ』 四季 横浜公演 開催決定

2009年5月3日に東京公演（五反田／大崎）が千秋楽を迎えましたが、2009年11月より横浜のみなとみらい21地区に新たにキャッツ・シアターを建設し、ロングラン公演が行われることになりました。『キャッツ』日本公演は昨年25周年を迎え、現在までの総公演回数は7000回を超え、総入場者数は750万人以上と、日本演劇史上最長記録を更新中です。

劇団四季代表の浅利慶太さんは、「劇団四季は横浜市のおさみ野に本社があり、その大きな稽古場を発信地としていますので、横浜でやっと（劇場を建てて上演が）実現できることになりました。みなとみらいを文化の中心地に作り上げるお手伝いができたいいなと思います」とコメントしました。

★日程：2009年11月開幕～ロングラン公演

★会場：キャッツ・シアター
（横浜市西区高島1丁目）

★チケット料金：S席9,800円 A席8,000円 B席6,000円 C席3,000円

ファミリーゾーンS席子ども5,000円 ファミリーゾーンA席子ども4,000円

※子ども料金対象3歳以上、小学校6年生以下

★お問い合わせ：

劇団四季東京公演本部 03-5776-6730



「この作品は自分の背中をポンと押してくれました」 石丸幹二さんにインタビューしました。

2009年7月5日(日)～8月9日(日)にパルコ劇場で、ピューリッツァー賞受賞ミュージカル『サンデー・イン・ザ・パーク・ウィズ・ジョージ～日曜日にジョージと公園で～』が上演されます。19世紀末、ジョルジュ・スーラという1人の画家が描いた点描画〈グランジャット島の日曜日の午後〉という作品にインスパイアされ、スティーヴン・ソンドハイムがミュージカルを作りました。それが今回上演される作品です。演出は、宮本亜門さんが手掛けます。出演の石丸幹二さんと鈴木蘭々さんにインタビューしました。

Q 『サンデー・イン・ザ・パーク・ウィズ・ジョージ～日曜日にジョージと公園で～』は、どのような作品ですか？

ひとこと言うと、迷いの霧が晴れていくような作品ですね。僕は1年前にこの作品をブロードウェイで観たんですが、「前向きに、自分の選択を信じて進めばいいんだ」と、ポンと背中を押してくれたように感じました。

ソンドハイムの曲は、表現する人間にとっては同じようなメロディを色々なバリエーションで奏でながら、同時に感情を乗せて歌うという、ウルトラEレベルの難しさ。今、稽古場で格闘中です(笑)。でも、聴く側の人にはとっても心地いい音楽ですよ。

1幕と2幕で出演者全員が違うキャラクターを演じ分けます。僕は、1幕はジョルジュ・スーラという画家を演じ、家族や恋人など周りの人々との人間関係を通して、彼の人生の一部を描いてゆきます。2幕は時を経て、ジョルジュ・スーラの子孫(ひ孫)にあたるジョージという役で、彼も美術家です。1幕、2幕を通して感じるのには、人間は誰も、色々なつながりの中に生きているってこと。人は手を取り合って生きているし、上の世代ともつながっているんだってことを思い出させてくれる作品だと思います。

Q 幼少の頃からいろいろな楽器をなさってきて、たどり着いたのが歌ということですが、歌の魅力は？



石丸幹二さん インタビュー

僕は声も楽器だと思っています。だから今でも楽器を演奏し続けている感覚ですね。声って扱いにくいんです。だから課題がいっぱいあって、一生向き合ってもゴールにたどりつけそうにないなって思うぐらい魅力があります。

Q 劇団四季時代の17年を振り返ってみると

舞台俳優としての僕の原点です。今、新たな一步を踏み出したのですが、劇団時代に培われていただいた自分のペースを見失わないようにやっていきたいと思っています。

Q 退団後は新たな経験も多いと思いますか

毎回新たなカンパニーとの出会いですが、まだまだ慣れないことも多いです。でも、その中で、あえて未知の分野にも臨んでみよう、退団後の最初の舞台では朗読を経験してみました。ピアニストと2人きりの舞台。表現方法として、ひとつハードルを越えたような気がします。今はそんなふう色々な扉を一生懸命に開けている段階で、ある程度、開けた頃に自分なりの新たな道が見えてくるんじゃないかなと思っています。

Q 舞台も色々ご覧になっていますね

そうですね。ライブ感覚が好きなんですよ。でも、演劇やミュージカルに関しては、「この作品が生まれたのは、どういう背景があったんだろう」とか「ああ、この役者さん、巧いなあ」とか、観ながらも色々考えてしま

うんです。でも、オペラは違って、一観客として「なんてすごいだろう!」と(笑)。

僕たちって、長い歴史のほんの一瞬に生きているだけです。だから、舞台に立つときも、時代を超えて残ってきたものの価値を充分に分かった上でやっていたいと思うんです。そういうものには有無を言わせない圧倒的な力がありますよね。だから僕は、色々観て刺激を受けて自分を試したいと思っています。

Q 旅行もお好きだとか

これはまったくの趣味です。時間があれば、行き先を決めずに車を走らせたり、電車に乗ったり。「ああ、この路線に乗ったことがないので乗ってみよう」ということもあって、気付いたら鬼怒川でした。さすがに、行き当たりばったりで飛行機に乗ったことはありませんが、空港まで行って、「今から乗れるのはないかな」と掲示板を眺めたことはありました(笑)。なんだか、そんなことをつらつら考える時間が、とっても楽しいんです。

Q 読者の方にメッセージを

『サンデー・イン・ザ・パーク・ウィズ・ジョージ〜日曜日にジョージと公園で〜』という作品で、パルコ劇場に初めて出演させていただきます。僕たちと一緒に舞台を楽しんでいただければ、そして、個人のあり方、生き方、芸術、愛について、少しでも考えていただけるきっかけになれば嬉しいです。

石丸幹二さんプロフィール

1965年8月15日生まれ、愛媛県出身。幼少の頃より音楽に触れ、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。在学中の1990年、劇団四季『オペラ座の怪人』ラウル役でデビュー、07年の退団までに数々の舞台に立つ。1年の充電期間を経て、09年俳

優活動を再開。言葉と音楽のシリーズ『イノック・アーデン』、ミュージカル『ニュー・ブレイン』に続いて今回3作目の出演。今後、2009年9月12日～10月4日まで『コースト・オブ・ユートピア』(シアター・コクーン)に出演予定。

パルコ劇場で上演されるミュージカルにご出演の 鈴木蘭々さんにインタビューしました。



『サンデー・イン・ザ・パーク・ウィズ・ジョージ ～日曜日にジョージと公園で～』

【公演概要】 日程：7月5日（日）～8月9日（日）/ 会場：パルコ劇場 / 作曲・作詞：スティーヴン・ソンドハイム / 台本：ジェームス・ラパイン / 演出：宮本亜門 / 出演：石丸幹二 戸田恵子 諏訪マリー 山路和弘 春風ひとみ 畠中洋 野仲イサオ 花山佳子 鈴木蘭々 ほか / チケット料金：10,000円 / お問い合わせ：パルコ劇場 03-3477-5858

Q この作品に出演が決まったのご感想は？

演出の宮本亜門さんとは、2004年に『ユーリントウン』という作品で一緒させていただいたんですが、もう1度何か一緒できるご縁があったらなと思っていたのでとても嬉しいです。歌と台詞がたくさん盛り込まれた作品になりそうですね。女性店員で、よくしゃべる女の子の役をやらせていただきます。パルコ劇場には、今回初めて出演します。なんとなく、観るのも出るのも敷居が高そうなイメージがありますね（笑）。クオリティーの高い作品をたくさん上演しているので、ブラッと入ったら打ちのめされそうな感じですが、楽しみながら頑張りたいと思います。美しい作品になると思いますので、是非皆様足をお運びください。

Q 以前、ニューヨークに留学を？

10代の頃から憧れはあったのですが、自分のアイディアの引き出しが少なくなってきたなという頃に、アメリカに行ってみたいという衝動に駆られ、28歳の時に1年ほどブロードウェイに行きました。13歳位から

仕事をしているので、今までやり残してきたことをここでやろうと思って。もともと、外国人の方の表現方法が個人的に好きなのですが、ダンスなどのレッスンを受けていても皆さん自己アピールがすごくて刺激を受けました。当時のオフブロードウェイとブロードウェイの作品はほとんど観て、歌声の素晴らしさや作品の斬新さも体感しました。とても前衛的な作品があって、さすがに日本が生み出す文化とは違うなぁと驚いたり。ニューヨークで過ごした時間があったのとなかったのでは、自分の人生が全然違うものになっていたと思います。

Q 最近は舞台出演も多いですね

私は、ハブニングで代役として出演させていただくことも多いのですが、ニューヨークでの経験なども役立ち、思ったよりは出来るようになっていて、自分も知らない間に培っていたものもあるんだなと思いました。自分の中で、若い頃は協力し合うことにあまり興味がなかったタイプだと思っていたのですが（笑）、最近みんなで力を合わせて何かを作り上げるということも好きなんだということに気付きました。自分でも気付かなかった部

分を、舞台経験を通して知った感じですね。自分で足りないなぁと思うところは、割と周りの方が作られているのを見てから自分の役を作っていくんですね。今年、芸暦20周年を迎えたので、これからは自分から発信していくスタンスで頑張りたいと思います。

Q どのような形で発信を？

自分を発信として色々な人と手を取り合っ
て、作品も作ってみたいなぁと思います。
絶対にやりたいと思っていることが1つあ
って、バイオリン奏者が「イエスタディ」を弾
いて、それに合わせて1人で踊るというコ
ラボレーションは是非やってみたいです。あ
とは、実現できるか分かりませんが女優をし
ているお友達に短編の詩を書いてもらって、
それを3人位で読み合っ、全然違う世界
観を言っているんだけど、最後につながっ
ていくような作品が出来たら面白いなぁと思
って。他には、演奏している人と即興で合わ
せるコラボをしたり、映像クリエイターに私
の好きな「宇宙」を表現してもらったり。や
ってみたいことは色々ありますね。

Q 目黒区にお住まいとか

目黒は、お洒落なレストランもあるし、意
外と自然が多いところがいいですね。あと、私
は家具が好きなので、インテリアのお店が多
いところも気に入っています。地元のお店も結構
活用して、楽しい日々を過ごしています。

自由が丘あたりは思い出の地でもあるん
です。17歳の時に岩井俊二監督のテレビドラ
マ「ゴーストスープ」に出演させていただき、

鈴木蘭々さん インタビュー

初めて演技をしました。その時のロケ地が自
由が丘だったんです。その時もお洒落な街だ
なぁと思いました。

鈴木蘭々さんプロフィール

1975年8月4日生まれ、東京都出身。
目黒区在住。ドラマやバラエティ番組な
ど映像の世界で活躍する一方で、最近で
は舞台の出演も多数。2004年『ユーリ
ンタウン』、2005年ミュージカル『ジキ
ル&ハイド』『キレイ 神様と待ち合わせし

た女』、2008年ユーミンソング・ミュ
ージカル『ガールフレンズ』ほか。2009年
は、『サンデー・イン・ザ・パーク・ウィズ・
ジョージ〜日曜日にジョージと公園で〜』
(パルコ劇場)、『サッチャンの明日』(9
月18日～10月11日 東京シアター
ラム ほか)に出演予定。

話題作が続々上演 & 美術館

演劇

ブロードウェイミュージカル 『COCO』

世界中の誰もが認める“20世紀を代表するデザイナー”ココ・シャネル。彼女の激動の人生をミュージカル化した舞台です。

演出・翻訳：G2/出演：鳳蘭、湖月わたる、岡幸二郎、大澄賢也、今陽子、鈴木綜馬 ほか/
日程：7月6日(月)～7月20日(月)にル テアトル銀座で上演。その後、7月25日(土)の横浜公演を皮切りに、全国公演を実施。

お問い合わせは：
Quaras エンタメ事務局
0570-017-333
(テープ案内)
<http://coco.mu/>



演劇

市村正親さん主演 天才画家ゴッホの生涯を 描いた舞台『炎の人』

太陽とひまわりの画家として、時に狂気の画家として知られる天才画家ゴッホの激しい炎のような生涯を三好十郎さんの手で鮮やかに描き出した傑作戯曲。今回、この戯曲を、演出家・栗山民也さんの手により装いも新たに上演されます。かねてからこの作品に思いを寄せていた、市村正親さんがゴッホ役を務めます。日程：6月12日(金)～6月28日(日)/会場：天王洲 銀河劇場/お問い合わせ：ホリプロチケットセンター 03-3490-4949 <http://hpot.jp/>



映画

デジタルシネマとして上映 『愛と青春の宝塚 ～恋よりも生命よりも～』

招待券をペア 2組 4名様にプレゼント
詳しくは 14 ページをご覧ください。

昨年、新宿コマ劇場のファイナルミュージカルとして上演され、好評を博した舞台『愛と青春の宝塚～恋よりも生命よりも～』が、ソニーの「Livespire」シリーズとして映画館で上映されることになりました。戦争に翻弄されながらも、舞台に夢をかけたタカラジェンヌたちの愛と青春のミュージカル。舞台の感動はそのままに、最新技術を駆使して撮られた迫力ある映像が楽しめます。

7月4日(土)から丸の内 TOEI2 ほか 全国順次上映。 <http://livespire.jp/ai-takarazuka/>



演劇

PARCO presents 『狭き門より入れ』

人間はいつの時代にも何か大きな存在に取捨選択を繰り返されていたら…。それを知ってしまった人間はどのように行動するのか。よりよい世界を目指し、希望を求めてそれぞれの覚悟を見出すまでを描く SF 劇がパルコ劇場で上演。作・演出：前川知大 / 出演：佐々木蔵之介、市川亀治郎、中尾明慶、有川マコト、手塚とおる、浅野和之 / 日程：8月17日(月)～9月6日(日) / 会場：パルコ劇場 / お問い合わせ：パルコ劇場 03-3477-5858 <http://www.parco-play.com>



美術

目黒区美術館
『線の迷宮 <ラピルス>・番外編
響きあい、連鎖するイメージの詩情
——70年代の版画集を中心に』

8月1日(土)～9月27日(日)
招待券を5組10名様にプレゼント。詳しくは14ページをご覧ください。

目黒区美術館が開館前から収集してきた現代版画を、版画集を中心に展示します。他館所蔵の作品も若干加え、世界でも広く評価された日本の現代版画の一時代を俯瞰します。
場所：目黒区目黒2-4-36/開館時間：10:00～18:00(入館は17:30まで)/月曜休館(9月21日<月・祝>は開館)/観覧料：一般600円、大高生・65歳以上450円、小中生無料/お問い合わせ：目黒区美術館：03-3714-1201
<http://www.mmat.jp/>

美術

東京都庭園美術館
『Stitch by Stitch ステッチ・パイ・ステッチ 針と糸で描くわたし』

7月18日(土)～9月27日(日)
招待券を5組10名様にプレゼント。詳しくは14ページをご覧ください。

タイトルにある「Stitch(ステッチ)」とは、「針を運ぶこと」という意味です。それぞれの作家が独自の作品世界を織り出すインスタレーションにもご期待ください。

場所：港区白金台5-21-9/開館時間：10:00～18:00(入館は17:30まで)/7月22日、8月26日、9月9日、9月24日は休館/観覧料：一般1,000円、大学生・専門学校生800円、小中高生及び65歳以上500円/お問い合わせ：東京都庭園美術館03-3443-0201
<http://www.teien-art-museum.ne.jp/>



美術

松岡美術館
『エコール・ド・パリ展』
パリにきらめく画家たち

4月26日(日)～9月23日(水・祝)
招待券を5組10名様にプレゼント。詳しくは14ページをご覧ください。

松岡美術館所蔵のフランス近代絵画コレクションより、第1次世界大戦前後のパリで活躍したエコール・ド・パリの画家たち、モディリアーニ、キスリング、藤田嗣治、シャガール、ユトリロ、ローランサンらの作品を中心に展示します。

場所：港区白金台5-12-6/開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで)/月曜休館(祝日の場合は開館、翌日休館)/観覧料：一般800円、中高大生500円/お問い合わせ：松岡美術館03-5449-0251
<http://www.matsuoka-museum.jp/>



↑ マリー・ローランサン《若い女》
1937年

← 清川あさみ《Complex-voice》
2007年 写真、刺繍糸 Photo: タケミアート
フォトス